

【Q】57歳の女性です。毎年、市の子宮がん検診を受けています。本年初めて「境界領域」と言われ、婦人科を受診したところ「細胞診ではがんではないが、クラス2」と言われました。子宮頸がんワクチンは打っても効果はないのでしょうか。遺伝子検査をした方がよいのでしょうか。今後、私はどうしたらよいので



17

子宮頸がんが心配

でしょうか。不安です。

【A】子宮がん検診でクラス2ということは、ベセスダシステム子宮頸部細胞診分類において非腫瘍性所見のため、がんになる確率は低いとされます。

子宮頸がんというのは、子宮の入り口付近にある「子宮頸部」にできるがんのことをいいます。女性特有のがんの中で死亡原因の第2位を占めています。毎年約1万人が発症し、2013年

近澤 幸嗣郎
ちかざわ こうしろう



には2656人が亡くなっています。

検査方法は、子宮頸部の細胞を少量採取します。多少出血を生じることがありますが、痛みはほとんど感じません。

子宮頸がんの初期症状としては、不正出血や性交渉時の出血、おりものの異変などがありますが、自覚症状がないことが多いです。

遺伝子検査に関して、子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）検査を受けてもよいと思います。

宇都宮市医師会理事。ちかざわレディースクリニック（宇都宮市）院長。秋田大卒。65歳。

HPVは皮膚や粘膜に感染するウイルスであり、性行為によって感染します。検査方法は子宮がん検診とはほぼ同じです。全ての女性の約80%が一生涯に1度は感染しているといわれていますが、ほとんど一過性であり、2年以内に自然排出されます。自然排出されず、数年から数十年かけて持続的に感染した場合にがんになることもあります。

子宮頸がんワクチンは、心配であれば接種してもよいと思います。



イラスト/松本成貴

SHIMOTSUKE GRAPHICS

定期検診とHPV検査を

しばらくは、定期的な子宮がん検診の受診、HPV検査を受けることをお勧めします。HPV検査が陰性であれば、2年に1度の検査で問題ありません。

（第2、4金曜日掲載）

ドクターへの質問を募集します。お寄せいただいた中から毎月2件、紙面で回答します。病気の症状や経過などをなるべく詳しく書いてください。名前（匿名可）、年齢、性別、連絡先（住所、電話番号）を明記し、〒320-0868、下野新聞社くらし文化部「健康よろず相談室」係へ。住所不要。FAX（028・625・1185）、メール（dotoko@shimotsuke.co.jp）でも受け付けます。